

提案日 2025年 9月 25日

RDUF小委員会 提案書

1. 運営区分

2（提言・標準等をつくるための基礎資料等の作成を目指す。）

2. テーマ

PID ユースケース検討

3. 目的

研究成果物、研究者、研究費、研究機関などに ID を付与し、突合可能なデータを整備することで研究活動の分析に役立てる試みが進んでいる。近年、この取り組みを国際的な文脈で実践するため、永続識別子（PID）を用いたデータ統合と分析の試みが始まっている。日本においても、2024 年 11 月に示された「第 7 期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言」では、PID の整備による研究活動とその貢献の可視化について言及されており、「あらゆるアイテムやそれを取りまとめたものに PID を付与し、ネットワーク化することで、一定の信頼性の下、研究と知識生産の姿を多面的に捉えることができる」とされる。

この取り組みを戦略的に行うためには、国レベルで PID に関する戦略を策定し、分析対象として適切な PID の選定、導入までのロードマップ策定などを進める必要がある。しかしながら、PID は研究エンティティごとに整備のモチベーションが異なっており、足並みを揃えるのは容易でない。そこで本小委員会では、国際的な PID データ利活用の具体的なユースケースづくりを目的として、大学の研究評価における実務を題材に、書誌レコード/著者名/機関名に関する各 PID のメタデータ品質を分析する。その他、助成金/装置などの PID についても、参加者の関心に応じてメタデータ品質を分析する。さらに、分析結果をもとにした各 PID の使用方法と実務的なメリットを整理し、報告書としてまとめる。

参考：

第 7 期科学技術・イノベーション基本計画に向けての提言

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-26-t376.pdf>

RDA National PID Strategies Guide and Checklist

<https://doi.org/10.15497/RDA/00091>

4. 成果物

- ・書誌レコード/著者名/機関名に関する各 PID のメタデータ品質分析結果
- ・（参加者の関心事に応じて）その他 PID のメタデータ品質分析結果
- ・研究評価の文脈における PID の選択肢一覧

5. 成果のインパクト

具体的なユースケースを題材に分析結果を示すことで、異なる種類の PID を整備する関係者が共通のデータ利活用イメージを持つことが可能になる。これにより、関係者間のコミュニケーションが円滑になるとともに、PID 戦略策定に向けた議論が進むことが

期待される。

6. 小委員会の活動計画

活動形態：オンラインミーティング（1～2 カ月に 1 回）

マイルストーン：

① 2025 年 11 月～12 月

これまでの取り組みに関するレビュー（政策文書・ガイドライン等のまとめ）

② 2026 年 1 月～2026 年 5 月

PID メタデータ品質の分析、議論

③ 2026 年 6 月～10 月

報告書まとめ

成果物創出やコミュニティ拡大に向けた方策：

- ・ RDUF 公開シンポジウムでの中間報告
- ・ 各種メーリングリストでの呼びかけ など

7. 初期委員（所属）

矢吹 命大（横浜国立大学 経営戦略本部）

荻 多加之（福島大学 地域未来デザインセンター）

久保 琢也（信州大学 アドミニストレーション本部）

小野寺 夏生（文部科学省科学技術・学術政策研究所）

叢 艶（名古屋大学 情報基盤センター）

田辺 浩介（国立研究開発法人物質・材料研究機構 技術開発・共用部門材料データプラットフォーム）

南山 泰之（東京大学社会科学研究所）

8. その他

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）でも同様のユースケース作成に取り組む計画があり、連携しながら活動を展開する予定。